京都教区10年（1997～2007）の 共同宣教司牧の歩みを共にふり返りましょう

2007年12月1日
京都司教 パウロ大塚喜直

趣 意 書

1. 共同宣教司牧10年の歩みのふり返り

私が司教叙階され10年がたちました。私はこの間、京都教区の運営を『共同宣教司牧』という基本方針で行なってきました。田中司教様が1990年京都教区に始めて『共同宣教司牧』を導入され、その後次第に『共同宣教司牧』のブロックを拡大し、2001年には全56小教区が14の共同宣教司牧ブロックに編成され、京都教区のすべての教会の信徒が、『みながひとつになって』（司教の Motto）、共同宣教司牧の精神であらたに福音宣教を行う歩みを始めました。

そこで、今まで10年の共同宣教司牧の歩みをふり返り、私たち信徒・修道者・司教がお互いに、『共同宣教司牧』の現実をくよくよく見て、<評価して>、更に<実行>出来るようにしたいと思います。

2. 小教区評議会と「部会」活動の今後の充実と方向性

「小教区評議会規約」作成が完了したら、『共同宣教司牧』の推進の次なる大きな課題は「部会活動」を中心とした小教区、ブロックの実質的活動です。すべての小教区には、教区共通の5つの「典礼」、「教育」、「広報」、「財務」、「施設管理」の部会活動があり、さらに独自の部会を設置した教会もあります。部会の活動の充実のために、教区が、教区本部事務局や関係委員会（例、典礼委員会、聖書委員会、信仰教育委員会（教会学校部門）、青少年委員会、国際協力委員会、カトリック正義と平和京都協議会、アジア交流委員会など）、および「福音センター」と連携して、各部の活動の補助や指導など、またそのための研修会などを企画していくことが考えられます。

各小教区・ブロック単位での「部会」活動の進展を見ながら、共同宣教司牧を基軸にした「福音宣教する共同体づくり」と「信徒の生涯養成」を総合的に行うような、教区の「機構」をこれから、一緒に考えてみたいと思います。

3. 「教区機構改革検討特別諸委員会」の設置

11月の司教評議会に、教区の諸「委員会」、「福音センター」、「共同宣教司牧推進チーム」を有機的に連携させ、各共同宣教司牧ブロック・小教区に教区レベルの『共同宣教司牧』の啓発・養成、「新しい福音宣教」の具体的な取り組みのための企画活動等を行なうような、教区レベルの機構を検討するようお願いしました。これが、「教区機構改革検討特別委員会」の設置の目的です。来年2008年一年をかけて検討し、できれば2009年の4月から、新しい機構で運営したいと思います。

4. 信徒のみなさんの意見の集約方法

できるだけ多くの信徒のみなさんと一緒に現在行われている共同宣教司牧をふり返るため、その意見集約の方法として、来年アンケートを行いたいと思います。このアンケート調査は3月から始めて、9月くらいから集計を行いたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

5. 各ブロックの役員にお願いする『共同宣教司牧の歩みの評価』

毎年2月から3月に行っていました「司教の地区集会」を来年は行ないません。その代わりに、昨年同様、各「共同宣教司牧ブロックの歩みの評価」をブロック会議でまとめてください。そのまとめは、来年5月の教区協議会（5月10日）までにします。まとめかたは、別紙「ブロック共同宣教司牧の歩みの評価項目例」を参照してください。（記入用紙は、A4 2枚以内で「ワード書式」にします）

そして、7月末までの各地区協議会で、地区ごとに「ブロックの歩みの評価」を発表して、分かち合ってください。そして、その会議の記録を7月末までに教区に提出してください。

（E-mail の添付文書で、honbu@kyoto.catholic.jp 教区本部まで）。

以上。